

## 写真 <たんぼコース>



田植え前の準備。きれいに畦ぬりされ、代かきが終わったたんぼ。ツバメもお客様としてやってくる。  
(2002.5.31)



除草機やごぶりなど、手作業のための道具を使った。みの、たこうらばち（笠）など、様々な道具を地元の方から提供していただいた。(2002.7.1)



田植え。張り綱に沿って植える。泥に足をとられて尻もちをついた人もいた。  
(2002.6.6)



とった草は丸めて株間に押し込む。ボランティアさんに要領を教わる。ここで「草だんご」の言葉が生まれた。大きな草だんごを手にした子どもも見える。  
(2002.7.1)



草とり。手押し除草機の使い方を教わる。たんぼを囲む白いテープは、ヌートリアが若苗を食べるのを防ぐために応急的に設けたもの。  
(2002.7.1)



作業後のまとめ。昔の人の生活についてもお話を聞く。  
(2002.7.1)



はせごえ、手での草とりの後、堆肥をまく。ボランティアさんが苗かごを担いでくださいました。会話の中からもいろいろなことを学ぶ。光岡明徳さん撮影。  
(2002.7.17)



刈り取った稲株は少しづつずらせて置く。結わえて小さな束にし、はでに架けたときに落ちにくくするための知恵である。  
(2002.10.21)



シルバーさんによるイノシシよけトタン柵の設置  
(2002.8.23)



落ち穂ひろい。前日の雨でたんぽはぬかるんでいた。  
(2002.10.21)



稻刈り、稲株の持ち方、刈り方について教わる。  
(2002.10.21)



おおむね終了。泥だんごづくりに精を出す子供も。  
(2002.10.21)



落ち葉かき。たんぼ奥の林で落ち葉や小枝を集め  
る。  
(2003.1.10)



熾き火にさつまいもを入れて焼き芋を作った。そ  
ろそろできたかな?  
(2003.1.10)



木枠に入れて踏み固め、ぬかも混ぜ込み、堆肥を  
作る。重しとして湿った堆肥を置く。  
(2003.1.10)



あぜに腰かけ、焼き芋試食。(2003.1.10)



最終回「落ち葉かき（堆肥づくり）」が終わって、たんぼの周囲で下刈り作業をされていたシルバーさ  
んと一緒に、最後列はシルバーさん、前・中列は子どもたちと先生、間にセンター・ボランティアさん、  
おじいさん、おとうさん、子ども、と3世代の大家族のようにして、今回の行事を行なうことができた。  
(2003.1.10)

## 写真〈炭焼きコース〉—佐伯町立山田小学校4年生—



「ノコを使う」《だいじょうぶかな?》心配そうなシルバーさん。  
(2002.10.30)



「詰め込み」すきまのないように……  
(2002.11.15)



「たきものづくり」手をとって教えるボランティアさん。  
(2002.11.8)



「火入れ」勢いよく燃えだしたよ.  
(2002.11.15)



「玉切り」しっかりおさえて！  
(2002.11.11)



「窯だし」炭ができたよ！  
(2002.11.25)



山陽新聞提供

(2002年12月19日付朝刊、東備版)



山陽新聞提供

(2002年12月21日付朝刊、東備版)

## 炭よく焼けた

### 佐伯小6年 窯出し体験

#### 自然保護センターと連携

本年度から総合的な学習が本格的に実施されたのに伴い、町内の小学校と連携して学習の支援を始めた佐伯町田賀県自然保護センターで十九日、佐伯小学校（同町米沢）の六年生が炭の窯出しを体験し

研究員や町シルバー人材

同センターは本年度から里山保全をテーマにしたプログラムを組み、研究員やボランティアが講師となって学習を支援。

現在、同校が炭焼きのほか、コメやシイタケ作りと手にとってチェック。

出来上がった炭で焼き芋を作り、全員で味わつた。

同センターは「今後も施設の特徴を生かして、総合的な学習に協力したい」としている。

芋を作り、全員で味わつた。

佐伯小学校の六年生は町内で古くから炭焼きが行われていることが、炭焼き名人になろう

のテーマで学習。十一月にセンター内の山でコナラ、ソヨゴなどの雑木を切り、今月、炭焼き窯に詰めて火入れをした。

この日、同センターの

佐伯町米沢、佐伯小学校の五年生は十八日、地域のお年寄りを招き、児童が刈り取ったわらを材料に、お飾り作りに挑戦した。わらは県自然保護センター（同町田賀）で今年一年、児童が米作りを体験し、稲刈りをしたものを利用。町シルバー人材のは初めてで、縄にするセンターや久永幹雄さんが難しかった。お正月に飾りたい」と話していた。

#### めがね型お飾り作った

佐伯小  
児童  
お年寄りから学ぶ

〔写真〕同町田士郎が講師を務め、めがね型のお飾りを作った。

児童は久永さんの手の動きをまねながら、生懶命に細をない、はさみで形を整えた。完成すると

友達と見合っていた。原光輝君（二年）は「お飾りを作ったのは初めてで、縄にする

自分で作ったのを玄関に飾りたい」と話していた。